



# CANOVA

だより

no.

# 42

2008年5月発行

文・写真 \_ 鈴木真由美 編集 \_ 橋口博幸 発行 \_ ブラジル事務局

Praia do Esteveao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

クリスマス、お正月と過ぎ、ここブラジルではカーニバルまでの長い休みを経て、2月11日、子ども達はまた元気よく登園し始めました。保育園、1年生(前ブレ・エスコラ)、学童教室の3クラス、合計37名の子ども達を受け入れて今年も活動を行っていく予定です。

また、今年度よりアラカチ市教育局から用務員さんが一人派遣されることとなりました。教職員合わせて7名、力をあわせて頑張っていきたいと思っています。長期休暇中に現地において支援者の協力により、バルコニーの増築と塀を作ることができ、子ども達の遊びの世界もまた大きく広がりを見せ始めました。そして、長年の夢であった子ども達と共に行う畑作りにもチャレンジしていきたいと考えています。一体どんなものが出来上がるのか? 今ご期待です!!!

## 目次

1. 助成金獲得のお知らせ
2. 卒園していった子どもたち / 子育て日記
3. ボランティアの方々
4. 会費・寄付・告知



## 地球市民財団より 助成を頂きました!!

地球市民財団より『地域住民によるブラジル東北部貧困漁村の初等教育向上事業』として二〇〇八年四月一日～二〇〇九年三月三十一日の一年間のプロジェクトを行うこととなりました。

昨年に引き続き助成を頂けることとなり、継続して保健・衛生及び環境問題の講座を地域一般住民に開講、幼児教育及び一年生のスタッフ四名への教育学講座を開催、そして地域への一年生クラスカリキュラム、授業内容の公開(公開授業開催)を実施予定です。昨年より始まった義務教育九年生を受け、今までブレ・エスコラだったものが一年生となったにもかかわらず、公立の学校では未だカリキュラムが確定していません。一年生の授業が今後確固としたものとなるためにも私達の活動を公開し、少しでも学校教育が向上、改善していく事を願ってこの事業に取り組んでいきたいと考えています。地元の公立学校と協力していく事により、初等教育の向上を地域全体で行っていく事が可能となるのではないかと考えています。

現地に根ざした活動を行っていくためにも引き続き人材の育成を強化していく事が必要であり、システムが改正された事によって不安定になっている初等教育を安定、さらには向上していく事が今後のブラジルの教育にとって大きな鍵となることは間違いないと思います。幼児教育から初等教育へ。それらが別々のものではなく、お互いに手を取り合い、学びあっていく事をこの事業を通して実現できればと考えています。一年という期間でどこまでできるかわかりませんが、子ども達の将来がよりよいものとなるよう、努めていきたいと思っています。

# 卒園していった子ども達

二〇〇七年末をもって私達の手を離れ、新たに旅立っていった子ども達がいまも。本当ならばあと五年、いや最低でも一年くらいは一緒にいれると良かったのですが、教室や教師の不足ということもあり、残念ながら卒園となってしまいました。私達の手を離れても、元気に、明るく、そしていつまでも学ぶ姿勢を忘れずにいる事を願って止みません。



## トーマス (9)

体を動かすことが大好きな男の子。カポエラにサッカー、時間があればいろんなことに参加しています。



## イネース (9)

おしゃべりな女の子。末っ子ということもあり、面倒なことは誰かがやってくれると思っているふしも…それでも食器洗いに掃除と毎日頑張っていました。



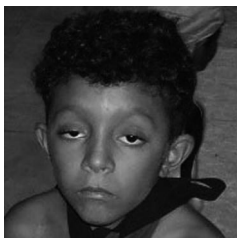
## オスカー (8)

頭脳明晰、おしゃべりをさせたら止まらない。静まり返った部屋の中でも、決まって一番に口を開く。運動が苦手だった彼が FUTSAL を始め一度も休まずに通っています。



## カロリーニ (9)

元気で明るい女の子。少し照れ屋などところがあり、人前で何かをやることは苦手。そんな彼女はとても器用で、クラスで唯一リコーダーを上手に吹いていました。



## ヒカルド (11)

聾唖の男の子。そんな事を微塵も感じさせないほど、友達と一緒に遊び、スポーツをこなす。ただ、どうしても小学校の授業は好きになれずに不登校気味。



## エストレーラ (9)

エストレーラとは『星』という意味。その名の通り、彼女の存在を忘れることが出来ないほどクラスで人一倍輝いていた印象深い女の子。落ち着きがなく、少し荒っぽいですが、お手伝いが大好きな優しい一面もあります。

## ヒカルドとの関わり

ヒカルドは聾唖のため、現地の小学校で受け入れてもらえず、異例ではありますがブレ・エスコラに3年通いました。休みがちではありましたが、それでも3年間通い続けていたために、昨年、3ヶ月間も小学校に来ていないという話を聞いたときには本当に驚いてしまいました。

母親が住居を頻繁に移ることもあり、少し離れた場所に住み始めると学校に来なくなってしまう。

担任教師一人では聾唖の彼を教えることは難しく、そのために私達はボランティアを受け入れるとまず初めにヒカルドのサポートをしてもらっていたので

した。それでも、学校にさえ通わなくなってしまったヒカルド。いくらサポートしてくれるボランティアがいても、学校に来ないのでは意味がありません。何度か迎えにも行ってましたが、それに甘えるようになってしまい、“迎えが来ないなら学校に行かない!!”と言うようになってしまいました。

昨年、家族との話し合いの中で聾唖のヒカルドが通常学級に通い続けることはカノアの学校システムの現状として困難であるという結論になりました。しかし近隣には聾唖の学校もなく、このままでは学校に行く事が出来なくなってしまうのは目に見えています。昨

年、私達はセアラ州の保健医療機関に依頼して、何とかヒカルドに補聴器を無償でもらえることが可能となりました。しかしそのためには州都まで何度も検査に通い、補聴器の試聴を定期的に行っていく必要があります。補聴器を使用しても聞こえるようになるかどうかは分からないと医師には言われていても、試してみることはできます。そうしなければ彼の人生は今後もっともつと困難になっていってしまうでしょう。私達の手元を離れても尚、彼のためにできる限りのことはしていきたいと私達は考えています。

## 子育て日記より

異国の地での子育て。文化や習慣の違いから、悪戦苦闘しながらの毎日。それでも子どもは子ども。どの国にいても、子どもと向き合いながらの暮らしに代わりはありません。そんな中から学んだことや、驚いたことなどを皆さんにお伝えしていければと思います。

最近特に感じているのは「母乳」の素晴らしさ。ブラジルでも母乳育児は推進されており、生後六ヶ月になるまでは母乳のみで育てていきましょうというポスターをあちこちで見かけることができます。私も娘を母乳のみで生後六ヶ月まで育てました。今振り返ってみると、風邪をひくことも稀です。すし、体も丈夫であり、これも母乳の力かと改めて感じています。その後離乳食を始めましたが本当によく食べ、母乳しかあげていなかったためにどうなるかという心配も悩み損だったような気がしています。

しかし母乳のすごさはそれだけではありません。カナアでは、蚊に刺されれば『母乳をたらしてごらん』と言われ、目やにが溜まっていると、『母乳を一日三回、目に入れてあげて』と言われ、顔などに湿疹ができる『母乳を塗ってあげて』と、地元母親だけでなく、小児科の先生でさえもこの母乳の素晴らしさを生かして母親達に指導しています。確かに、幼い頃から薬などを使用しているとその後さらに強い薬と余計に体を壊してしまう事になりがちです。そこにいけば母乳というのはそんな心配もありませんし、経済的です。こんなにも優れている母乳。日本でもこういうことを行うのでしょうか？もしよろしかったらご意見をお聞かせください。

# ボランティアの皆さん、 どうもありがとうございました!!

(2007年11月より現在まで)

2007/8/24 - 2008/1/22	<b>Hannah さん</b> ドイツ人、看護師、聾唖の子どものケアを担当、自室で診療所を開設
2008/1/11 - 2/6	<b>稲谷千妃呂さん</b> 学生(4月より幼稚園教諭)、日本文化講座を開講
2008/1/28 - 3/20	<b>福井俊紀さん</b> 学生、学童教室補助、日本語教室開講、日本祭開催
2008/1/28 - 現在	<b>福田太志さん</b> 農業への取り組み、コミュニティーセンター管理及び補修

## 日本祭り



## ボランティアよりご報告

注)ポルトガル語で残してくれた報告書の一部を訳して掲載しています。

### 学童教室にて 福井俊紀

モンチ・アズールよりもカノアでのこの仕事の方が私は好きでした。ただどクラスの中の何人かの子ども達には私への尊敬の念を得ることができませんでした。一番好きな時間はおやつ時間です。なぜならば子ども達は穏やかで、静かに食べていたからです。私はこの子ども達から食べ方を学んだような気がします。毎週月曜日は折り紙を教える日でした。この日が来ると子ども達は私が想像していた以上にとても嬉しそうでした。休み時間になると子ども達は毎日同じ事をしており、それが私にとっては辛かったです。学童教室では毎日の時間がきちんと決められており、こういったリズムがあるという事が私はとても好きでした。

## 四ヶ月ぶりのカノア 稲谷千比呂

青い空と海。どこまでも広がる砂丘とその向こうに続く森。さんさんと輝く太陽の下にあるエステーヴァン村。四か月ぶりに訪れたカノア・ケブラーダ。私が初めて訪れたのは昨年九月のことでした。そのとき、海外の幼児教育に興味を持っていた私は、一ヶ月ブレ・エスコラでボランティアをしたのです。

二度目にカノアを訪れることになったのは、一月。ブラジルでは夏休みの時期にあたり、学校も保育園もお休みです。どんなことが出来るだろうと真由美さんと話したところ、提案されたのは日本文化についての教室を開くことでした。子ども達は休みの間、村の中や海や砂丘でぶらぶら過ごしていることが多く、一日のうちのちよつと時間だけでも、子ども達が集まって何か出来るような場があると良いと思う、と真由美さんは話してくれました。一月なので、「日本のお正月」をテーマに二週間教室を開くことになりました。早速予定を考えつつ、教室開催のポスター作りを子どもにも手伝ってもらって、村の中で子ども達が集まりやすい場所に張らせてもらいました。

初日には二十人程の子ども達が集まりました。教室となったのは、日本郵政公社ボランティア貯金によって建築中の建物でした。そこは窓がつい先日入ったばかりの出来立てで、まだ机も椅子も何もなかったのですが、まず子ども達と小学校から椅子と机を運んでくることから始まりました。

その日は、十二支のお話をした後に、お話の中の動物を紙人形でそれぞれが作り、最後にみんなで劇をしました。次の日からは福笑い作り、ビンゴ、お正月の歌、白玉づくり、折り紙、年賀

状作り、漢字かるた、すごろくなどをしました。

日によって参加人数は変わりましたが、毎日参加していた子ども達もいました。最終日は、他の日本人ボランティアにも手伝ってもらって、シチューと焼きそばをみんなで作りしました。日本式にみんな「いただきます」をして食べました。焼きそばはブラジル人に大人気という事は知っていたのですが、シチューもブラジル人の口には合うようで、お代わりする子どもが何人もいました。

正直、教室を始める前は、うまくいくかどうか不安でした。真由美さん達が見に来てくれるとはいえ、ろくにポルトガル語も出来ないのに、教室を開くなんて可能なのか?何をすれば良いのだろう?その不安は回を重ねるごとに減っていき、逆に次の日への楽しみへと変わっていきました。子ども達は私のつたない話を理解してくれようとしてくれていたし、何より彼らの楽しそうに遊んでいる姿があったからです。最終日から数日後、「もう教室はないの?」と子どもが聞いてきた時、教室開いて良かったな、と本当に思いました。

そして、今回のカノア滞在では、フラビアーニの家に一緒に住まわせてもらいました。彼女は前回ボランティアをさせてもらったブレ・エスコラで先生をしています。彼女達と過ごしたことから、村の生活を知ることができたり、何より素敵な時間を過ごせました。真由美さんだけでなく、彼女達にもとても感謝しています。

四月から、日本で幼稚園教諭として働き始めます。またいつか、カノアを訪れることを楽しみに、日本で真由美さんの活動を応援していきたいと思っています。



平成 19 年 9 月 28 日～平成 20 年 3 月 20 日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。  
これからも 1 人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけると嬉しいです。  
目標会員 100 名!!!

## 会費及び寄付を頂きました皆様

(以下順不同)

Sr. Diego

Sra. Geovania

Sr. Henrique

Sra. Man` e sua família

安孫子季久代 様

安見清・道子 様

大谷タカコ 様

岡本ゆり子 様

奥山海平 様 (チーム ボンバー)

落合加奈恵 様

(株)カメイ・プロアクト 様

河合級クラス会 様

川田真弓 様

神田昌実 様

神戸保・めぐみ 様

桑山寛子 様

佐藤知子 様

高杉正 様

高橋美智 様

田上晴彦 様

橋幼稚園 様

長谷川宏 様

婦人通信編集部 様

堀池眞輔 様

堀池ミツ子 様

村上誠 様

モンチ・アズール日本人ボランティアの皆様 (2007)

吉田可南子 様

## 物資支援を頂きました皆様

(以下順不同)

Maresia

桑山寛子 様

根岸清香 様

和井田ナミ 様

横浜市立栗田谷中学校 様

有り難うございます!!

# カノアでの日々 雑誌にて連載

カノアでの活動や生活を通して、皆さんと共に学びあうことができるのではないだろうか?そんな思いから、現在下記の 2 つの雑誌にカノアの活動のこと、日常生活で感じたことなどを連載しています。ご興味のある方はぜひご覧下さい。

### ■ 婦人通信

〒 151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-11-9-303

婦人通信編集部

tel:03-3401-6147 fax:03-5474-5585

e-mail : fujin-tsushin@cotton.ocn.ne.jp

http://www16.ocn.ne.jp/~fudanren/

### ■ めたもるふおーぜ

〒 520-2271

滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)

tel / fax : 077-546-4147

e-mail : metamor4se@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/metamoru4se/

## 光の子どもたちの会

「光の子どもたちの会」では、会員、協力会員を募集しています。支える会では「手工芸品の販売」「講演会」などにより多少の収入がありますが、充分な額ではありません。会の運営は全てボランティアにより運営されています。1 人でも多くの方々に会員、協力会員になっていただき、この会を支えていただきたいのです。頂きました会員費、協力会員費及び寄附などは、支える会の活動費、運営費となります。会員の方々には年 2 回の会報、講演会や、イベントなどのお知らせを、ブラジル事務局よりお送りいたします。

一般会員：年会費 5000 円

協力会員：年会費 1 口 36000 円以上任意額

尚、寄附、カンパは随時受け付けています。

### ■ 郵便振替

口座番号：00280-1-41787

加入者名：光の子どもたち-カノアの活動を支える会

### ■ ブラジル銀行 (Banco do Brasil) 口座

Agencia 0121-x

Conta Corrente 26357-5

Associacao Crianças de LUZ

## 支援者募集 !!!

今後も「光の子どもたちの会」として活動を継続していくために、最低でも現在 32 名の会員を 100 名にまで増やすことが必要不可欠であると考えています。現状では現地での活動を支えていくために必要な最低限の費用をまかなっていく事も、難しくなってくるでしょう。1 人でも多くの方に会員になって頂き、また寄付を頂くことができますよう、皆様のご支援・ご協力をお待ちしております。チラシの配布など、個人・団体問わず当団体の啓発に努めて下さる方はぜひ、日本事務局までご連絡いただければと思います。

「光の子どもたちの会」日本事務局 (堀池事務局長)

tel / fax : 045-321-1824

e-mail : horiike59@msi.biglobe.ne.jp